

ID: [REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED] 様

性別 [REDACTED] 生年月日 [REDACTED]

【セツキシマブ/フルオロウラシル/シスプラチン (Cmab/5FU/CDDP)療法】

スケジュール: 通常3~4週間で1コースの治療として繰り返し行います。

体調や検査値、副作用によってはスケジュールや点滴時間を変更する場合があります。

処方箋が出されます。治療と処方薬の確認のため薬局窓口でこの説明書を提示してください。

		今回のサイクル														次サイクル																											
		4														5																											
日付		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
点滴	アービタックス (セツキシマブ)	分子標的薬剤と呼ばれる抗がん剤です。初回は通常よりも多い量を2時間以上かけて点滴します。2回目以降は1時間程度で点滴します。血液中のミネラル成分が減少する場合があります。特にマグネシウムが減少し過ぎると、痺れ、痙攣、傾眠などが症状として出てきます。血液検査でチェックをしていますが、もしもご自宅でこのような症状が見られましたらお知らせください。																																									
	シスプラチン	白金製剤と呼ばれ、がん細胞のDNA合成を阻害する薬です。																																									
	フルオロウラシル(持続)	長時間かけて持続投与することで、DNA合成を阻害してがんの増殖を抑えます。																																									
副作用	皮膚症状	8~9割の患者さんに皮疹が出ます。初回治療後1~3週間の間に発症します。紫外線を避け、保湿を心がけましょう。必要時は処方されているステロイド入りの軟膏を使用してください。																																									
	過敏症状	点滴中に起こ息苦しい、ドキドキする、かゆみ・発疹が出る等の症状がありましたら、すぐにお知らせください。																																									
	悪心・食欲不振	治療法に対応した吐き気止めを使用しますが、治療日から数日間、むかつきや食欲不振が起こることがあります。個人差が大きいため、食事や水分が摂れない時はお知らせください。																																									
	便秘	抗がん剤や制吐剤(吐き気止め)によって腸の動きが悪くなります。水分を十分にとり、下剤を調節して便秘を予防しましょう。(市販の下剤でも構いません)																																									
	骨髄抑制	点滴後10~14日頃が白血球や血小板の数が一番少なくなることが予想されます。この時期は、手洗い・うがいをして感染症にかからないように心がけたり、ケガや転倒に気をつけましょう。																																									
	下痢	下痢を起こす場合があります。水分不足に注意し、下痢が止まらない、もしくは発熱を伴う場合はお知らせください。																																									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火

備考

治療期間中に息苦しい、咳が出る、熱が出るなどの症状が出た場合にはご連絡ください。

★アービタックスの皮疹は、治療経過により乾皮症や爪障害などに移行することが多いです。治療薬が出ましたら、その都度スタッフが使用法を説明いたします。詳しくは別パンフレットを参照してください。

この治療法は、作用の違う薬剤を組み合わせることで効果を高め、副作用を抑えています。(副作用は不快なものですが、対処の仕方、気持ちの持ち方によって感じ方は大きく異なります。患者さんご自身で工夫をされるとともに、辛いこと、困ったこと等ありましたら、医療者(医師・看護師・薬剤師)にご相談ください。



千葉県がんセンター 薬剤部
 千葉市中央区仁戸名町666-2
 TEL:(代)043-264-5431

CHIBA CANCER CENTER